

府中市史編さんだより

第 14 号 令和 7 年 (2025)3 月 24 日



『新府中市史』の描く景色

府中市長 高野 律 雄



このたび『新府中市史』の通史編が完成しました。市史本体にあたる通史編・資料編だけでも合わせて 19 冊の大部となりました。このことから、府中市が紡いできた歴史の重さを感じられます。

また、10 年にわたる市史編さんプロジェクトが、市制施行 70 周年にあたる今年度に完成したことも大変意義深いものだと思います。

前回の市史編さんから半世紀が経過しました。この間、府中市は着実に都市基盤を整備し、現代都市へと大きな発展を遂げてまいりました。『新府中市史』では、この 50 年間に起きた様々な出来事を記録しています。さらに、前回の市史編さんより継続して行われてきた調査研究により解明された事実を過去の歴史に反映し、リライトするなど、まさに「新」を冠する

に相応しい市史となりました。

府中市域には、太古の昔から現在に至るまで多くの人が生活し、関わりをもってきました。こうした市井の人たちこそが、実は歴史の主役であり、担い手なのです。府中の暮らしを著す市史全般に通底しているのは、そのような人々の府中への愛着とふるさと意識だと感じます。

『新府中市史』で記述されているのは歴史ですので過去の事実になりますが、市史の役割は、事実を後世に残すとともに、事実を道標として将来の府中を思い描くことだろうと思います。この『新府中市史』を礎にして、市民の皆さまがそれぞれのどのような未来の景色を見つめていただけるのか、そのことが市史の持つ大きな力なのだと考えております。

最後に、『新府中市史』の編さんにご尽力、ご協力いただいた多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

府中市の発展と未来に乾杯

府中市市史編さん審議会会長 坂 詰 秀 一



府中市の市制施行 60 周年の事業として企画された『新 府中市史』が、市制施行 70 周年にあたる令和 6 年度に完成しました。編さん 10 年の計画ではじまった事業で、途中刊行時期の変更等の調整もありましたが、スケジュール通り通史編・資料編 19 冊が無事刊行されました。編さんの途次、新型コロナウイルス感染症の拡大に際会し、対面による資料調査や聞き取り調査等が頓挫する事態が生じましたが、関係者の当意即妙によって克服されました。

市制施行 10 周年記念の『府中市史』（上・下、昭和 43・49 年刊）を承けて半世紀、『新 府中市史』の編さんは弛むことなく続けられ、エポック・メイキングな事業として市民の皆さんをはじめ各方面から注目され期待されてきました。

新資料の発見と調査研究が進み、過去の府中市の有様がより一層明らかになりました。

市名の由来であります古代の武蔵国の行政の中心地「武蔵国府」の国庁の跡が発掘され、国府の全域も明らかにされてきました。

南に多摩川の清流、北に緑豊かな台地をもつ平坦な国府の地は、北から南に向けた東山道武蔵路の要地であり、中世には鎌倉街道として鎌倉に至る要路でした。東から西に向かう甲州街道の府中宿は、近世以来、多摩の地の中核として発展していました。

古代から近代、さらに現代にかけて、府中は交通の要路として政治・経済・文化・宗教都市として発展してきました。

人びとの生活は、旧石器時代にはじまり縄文時代には大規模な集落が形成され、古墳時代の後半には武蔵府中熊野神社古墳などの古墳も築造されていました。府中の歴史の古さを物語る遺跡は市内のあちこちに見ることが出来ます。

『新 府中市史』は、このような自然と文化の織り成す府中市の過去と現在の事相を市民の皆さんに理解して頂けるように努力して作成をしました。「府中の温故知新」についての 1 巻となっています。

編さんにあたり、大所高所より応援を頂いた高野律雄市長をはじめ市職員の皆さん、市史編さん審議会の各位、執筆を担当してくださった多くの先生達、そして万般の協力を頂いた市民の皆さん、有り難うご座居ました。

『新 府中市史』の編さんに従事した多くの皆さんとともに

“府中市のますますの発展と未来に乾杯”

市史編さんを振り返る高野市長と坂詰審議会会長の対談が行われました



坂詰会長と高野市長の対談の様子

令和 6 年 10 月 8 日、高野律雄市長と坂詰秀一審議会会長の対談が行われました。

これまでに刊行された『新 府中市史』を前に、約 10 年間の編さん事業を振り返り、今後の活用に向けてもお話しされました。

対談の内容については、『新 府中市史研究 武蔵府中を考える』第 6 号に掲載されています。

市史刊行記念のパネル展を開催しました

令和6年10月18日から20日にかけて、フォーリス1階の光と風の広場にて「新 府中市史 刊行記念パネル展」を行いました。パネルでは市史編さんのこれまでの経緯をはじめ、それぞれの専門部会ごとの見どころを紹介しました。加えて、原始・古代と近現代の実物の資料も展示しました。さらに、展示期間中は市史刊行物の頒布も行いました。期間中には2248人の来場者があり、非常にたくさんの方に観覧をいただいたうえ、多くの方に市史をお買い求めいただきました。



刊行記念パネル展の会場の様子

市史刊行記念の講演会・座談会を開催しました

10月26日に市民活動センタープラッツのバルトホールにて、「新 府中市史」刊行記念講演会・座談会を開催しました。当日は100人の来場者があり、同時にホワイエに展示された市史のパネルと刊行物の見本を多くの方が興味深くご覧になっていました。講演会では府中市市史編さん審議会会長の坂詰秀一先生に「市史編さん事業の成果」を、座談会では市長、審議会会長、各専門部会の先生からこの10年間の編さんについてお話をいただきました。



坂詰会長の講演の様子



座談会の様子

坂詰秀一府中市市史編さん審議会会長の講演では、今回の市史編さんがどのように始まったかという経緯から、編さん体制が整ってからの10年間の推移や進捗を中心に振り返る形でお話いただきました。さらに、市史の原始・古代から近現代、自然、民俗、考古・美術工芸のそれぞれの分野についての成果をご紹介いただくとともに、今後の活用に向けて考えられる課題や展望についてもお話いただきました。

座談会では、原始・古代専門部会の酒井清治部会長、中世専門部会の海老澤衷部会長、近世専門部会の吉田ゆり子部会長、近現代専門部会の新井勝紘部会長、自然専門部会の三上岳彦部会長、民俗専門部会の松田睦彦委員、考古・美術工芸専門部会の猿渡昌盛委員に、高野市長、坂詰会長を交え、10年間にわたる市史編さん事業に携わっての感想や、苦労をされた点を中心に話をいただきました。

市外・市内のイベントで『新 府中市史』の紹介や販売を行いました

刊行した『新 府中市史』を周知するため、市内・市外で開催されたイベントで市史を紹介するためのパネルや見本の展示、販売を行いました。多くの方に市史への興味をもっていただき、市史をお求めいただきました。

11月3日 国天然記念物『馬場大門のケヤキ並木』指定100周年記念フェスティバル



令和6年11月3日にケヤキ並木にて開催された「国天然記念物『馬場大門のケヤキ並木』指定100周年記念フェスティバル」に、市史のコーナーを設けて紹介、販売を行いました。イベント全体では約3万人の来場があり、市史のブースにも多くの方が足を止めて刊行物を実際に手に取って見ていただくだけでなく、購入される方もいらっしゃいました。

11月23、24日 第10回府中市民協働まつり



令和6年11月23、24日の2日間、プラッツにて開催された第10回府中市民協働まつりに、「府中市けやき並木を守り育てる条例」の周知とともに、市史のパネルと刊行物の見本を展示しました。同時開催されていたスタンプラリーでは、市史のブースで97の方がスタンプを押していました。

12月8日 馬場大門のケヤキ並木 国天然記念物指定100周年記念講演会



令和6年12月8日にバルトホールにて開催された「馬場大門のケヤキ並木 国天然記念物指定100周年記念講演会」にて、ホワイエに市史のパネルと刊行物の見本を展示しました。講演会には164人の来場があり、講演会の前後や休憩時間には市史のパネルと刊行物を熱心にご覧になる方も多くいらっしゃいました。

令和 7 年 1 月 13 日 成人の日記念青年の集い



令和 7 年 1 月 13 日の成人の日記念青年の集いに合わせ、11 日から 13 日にかけて、ルミエール府中 4 階の中央図書館多目的室に市史のパネルと刊行物の見本を展示しました。

1 月 18、19 日 第 37 回多摩郷土誌フェア



令和 7 年 1 月 18、19 日の 2 日間にわたり、立川市の柴崎学習館で第 37 回多摩郷土誌フェアが開催され、府中市のブースにて市史刊行物の見本の展示と販売を行いました。全体で 2 日間合わせて 441 人の来場者があり、府中市史にも非常に多くの方が関心を寄せられ、新しく刊行された通史編を中心にご購入いただきました。

2 月 13 日～ 特別パネル展 in 中央図書館



令和 7 年 2 月 13 日より、ルミエール府中 3 階の中央図書館入り口前からエレベーター前のフロアにて、『新 府中市史』刊行記念特別パネル展を開催しています。会場には各分野のパネルのほか、刊行された市史の見本を実際に手に取って見ることも出来るようになっています。展示は 3 月まで開催の予定です。

府中市史編さん審議会開催報告

令和 5 年度第 1 回（5 月 12 日開催）

府中市史編さん審議会の答申について審議し、刊行計画の変更や進捗状況について報告しました。委員からは市史の活用についてのご意見をいただきました。

令和 5 年度第 2 回（8 月 9 日開催）

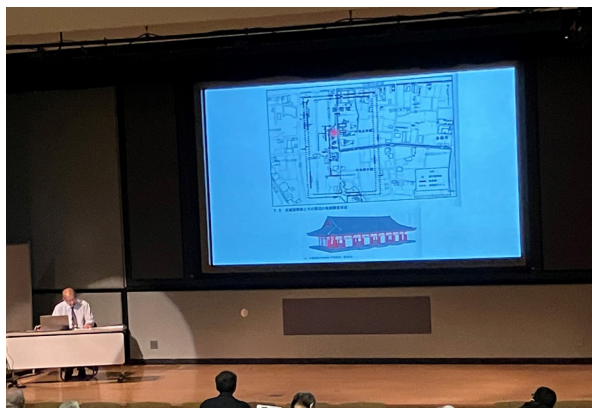
刊行計画と進捗状況、市制 70 周年において市史の報告会を予定していること等を報告しました。委員からは市史の活用や後継組織についてのご意見をいただきました。

令和 6 年度第 1 回（6 月 14 日開催）

本年度の刊行計画と進捗状況、10 月に開催予定の市史のパネル展と講演会・座談会、市史の今後の活用の方法について報告しました。委員からは、市内イベントや各団体への市史のアピールの提案、市史の活用について様々なご意見をいただきました。

原始・古代専門部会

資料編 3 冊・通史編 1 冊の刊行が終了しました。これと連動して、令和 6 年 10 月 19 日より生涯学習センター定期講座で「新 府中市史刊行記念 やはり府中はすごかった！」がスタート、12 月 7 日の第 4 回目で、酒井清治部会長が「府中市の遺跡から見た人々の営みとその変遷」と題した講座を行いました。



酒井清治部会長の講座の様子

中世専門部会

令和 6 年 3 月 27 日に、東京競馬場構内に所在する都指定史跡井田是政墓所にて、中世石塔の補足調査を実施しました。本調査の成果については、『新 府中市史研究』第 6 号に掲載される予定です。また、10 月 19 日の生涯学習センター定期講座の第 1 回目で、海老澤衷部会長が「中世府中の輝き」と題した講座を行いました。

近世専門部会

通史編を刊行しました。また、11 月 2 日には生涯学習センター定期講座の第 2 回目で、吉田ゆり子部会長が「17 世紀の府中一多摩川の流れに翻弄された地域の人びと」と題した講座を行い、市域の村々の成り立ちや開発の歴史についてお話しいただきました。

近・現代専門部会

通史編上・下の 2 冊を刊行しました。また、令和 7 年 3 月 1 日には生涯学習センター定期講座の第 7 回目で、杉山弘委員が「浅間山をめぐる近現代史」と題した講座を行いました。1870 年前後の幕末維新时期、1940 年前後の戦時

期、1960 年前後の高度経済成長期の 3 つの時期において、浅間山がどういう存在であったのかをお話しいただきました。



杉山弘委員の講座の様子

自然専門部会

自然編を刊行しました。11 月 23 日には生涯学習センター定期講座の第 3 回目で、三上岳彦部会長が「府中市の気候変動を探る」と題した講座を行いました。アメダス府中の観測データに基づく分析や、古文書から府中市の気候を復元する試みについてお話しいただきました。

民俗専門部会

民俗編を刊行しました。また、12 月 28 日には生涯学習センター定期講座の第 5 回目で、八木橋伸浩部会長が「府中の民俗にみるハレとケのくらし」と題した講座を行いました。市史編さんの調査で得られた成果を、戦前の貴重な映像資料とあわせて学ぶ機会となりました。

考古・美術工芸専門部会

令和元年に部会を発足し、5 年間の成果として『考古・美術工芸編』を刊行することができました。令和 7 年 2 月 15 日には生涯学習センター定期講座第 4 期第 1 回目として副島弘道委員による「府中の仏像—その魅力—」と題した講座を行いました。府中に伝わるさまざまな仏像について画像を見ながら紹介するとともに、美術作品としての仏像の魅力をお話しいただきました。

『新 府中市史』刊行物のご紹介



新 府中市史 原始・古代 通史編

本編は、約3万5000年前の市域で確認できる最古の住人の生活の営みに始まり、考古学的視点からみた旧石器・縄文・弥生・古墳時代の市域の状況、また文献に見られる飛鳥・奈良・平安時代（院政期まで）の市域を取り巻く状況、さらには武蔵国府に関わる発掘成果などを、8章に分けて扱っています。長い時間の中における、市域を巡る歴史的動向を考古資料・文献史料から解き明かしてゆきます。

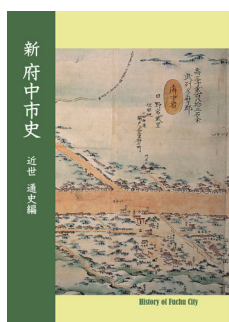
（令和6年3月発行） B5判 513ページ 価格3,100円



新 府中市史 中世 通史編

古代国府の所在地から、鎌倉幕府をはじめとする東国の武家政権の拠点として、また武蔵六所宮（現・大國魂神社）の門前町として、発展を遂げた中世の府中市域の歴史について、資料編から得られた成果に基づき、わかりやすく親しみやすい形で解説しています。武蔵総社文庫本『武蔵七党系図』画像を巻末付属DVDに収録。

（令和5年12月発行） B5判 649ページ 価格3,600円



新 府中市史 近世 通史編

編さん事業の過程で行われた古文書調査の成果をもとに、新たな視点で江戸時代の府中市域の歴史について叙述しています。甲州街道府中宿としての特色にとどまらず、村々で生活する人びとの様子や多摩川とのかかわり、また六所宮をはじめとする市域の寺社、地域の教育・文化活動など多様なテーマを取り上げ、府中の豊かな歴史像を描いています。

（令和6年12月発行） B5判 548ページ 価格4,700円



新 府中市史 近現代 通史編 上

明治維新时期から昭和初期までの約70年間の時期を扱っています。

明治維新时期、明治中後期、大正期、昭和初期と時期ごとに章を4つに分け、当時の府中の人びとが、近代化による価値観や環境の変化などに対し、どのように感じ、対応しようとしていたのかを、政治と行政、生活と文化、産業の三つのテーマを軸に描いています。

（令和6年3月発行） B5判 309ページ 価格3,100円



新 府中市史 近現代 通史編 下

上巻から引き続く昭和戦中期から令和の現在にいたるまでの、約80年間の時期を扱っています。

戦争のまっただ中から敗戦、戦後復興から高度経済成長など、社会が目まぐるしく変容していくなかで、人びとが府中というまちへとどのような想いを抱き、作っていかようとしていたのかを描いています。

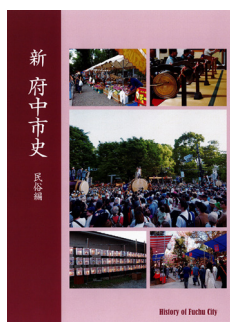
（令和6年9月発行） B5判 418ページ 価格4,200円



新府中市史 自然編

府中市の「気象と気候」「地形と地質・土壌」「水環境」「植物と植生」「動物」の各分野における、その歴史的な変遷と現状の分析について、豊富な図版とカラー写真を加えて解説しています。また、「多摩川」「崖線（ハケ）」「浅間山」「ケヤキ並木」といった、府中市固有の環境についても紹介しています。

（令和6年3月発行） B5判 507ページ 価格3,800円



新府中市史 民俗編

府中市にゆかりのある民俗学者・宮本常一が見た市内の民俗のほか、「なりわい」「つながり」「年中行事とイベント」「人生儀礼」「食べる・住まう」「信仰」「くらやみ祭」「芸能」といったテーマから、市内の民俗を描いています。

（令和7年3月発行） B5判 541ページ 価格4,200円



新府中市史 考古・美術工芸編

府中の歴史、文化、芸術を語るモノ資料、作品について、新たに調査、撮影を行い、解説と高精細なカラー図版を豊富に収録しています。

「第1章 府中市の考古資料」、「第2章 府中市の美術工芸品（彫刻・工芸）」、「第3章 府中市の美術工芸品（絵画）」、「第4章 大國魂神社の美術工芸品」の4章で構成しています。

（令和6年9月発行） A4判 473ページ 価格9,000円

販売場所

市史編さん事務室（府中市宮町3-1 ふるさと府中歴史館3階）平日のみ
市政情報センター（府中市宮町1-100 ル・シーニュ5階）
郷土の森博物館（府中市南町6-32）
観光情報センター（府中市宮町3-1 大國魂神社交番横）

通信販売

価格＋送料（※）を現金書留で次のあて先にお送り下さい。

〒183-0023 東京都府中市宮町3-1 ふるさと府中歴史館 市史編さん室

※送料は刊行物の種類と冊数で変わりますので、いずれかの方法で事前にお問合せください。

電話：042-335-4376 FAX：042-360-4401 E-mail：bunkazai02@city.fuchu.tokyo.jp

府中市史編さんだより 第14号 令和7年(2025)3月24日

編集・発行 府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課市史編さん担当

〒183-0023 東京都府中市宮町3丁目1番地 ふるさと府中歴史館

TEL 042-335-4376 <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/shishihensan/>